

平和・人権
社会・宗教
政治と暮らし
分かれ合い

No.50

共に生きる

編集／〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 /瀬下幸弘 FAX093-622-1290

しわす
走
12
2014

正義と平和全国大会の報告書ができました。(4サイズ 28p)

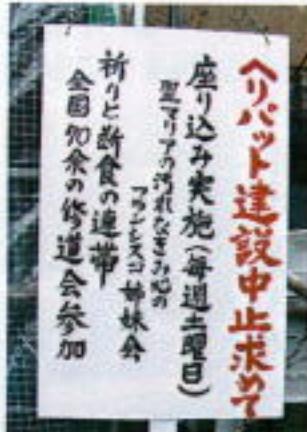
日本カトリック

沖縄の闘いは非暴力による平和への道

「報告書」ご希望の方はお知らせください。

FAX (093)622-1290 編集部

● 翁長さんを知事にとテント内は熱気
に満ちていました。
10万票近くの大差で
翁長さん当選)



N1ゲートで座り込み中のシスターたち

国道沿いの立て看板



説明する伊佐さん



那覇から車でおよそ3時間、沖縄本島北東部にある高江。毎週土曜日に続けています。ドキュメント映画「標的の村」の舞台となつた現場です。テントの中で話をうかがいました。与那原のフランシスコ会シスターは、全国の修道会から激励の手紙や写真が届けられ、自分たちも励まされているとのことです。沖縄と心を同じくするため、ある修道会では、修道院内でデモ行進し、その写真を現地に送っていました。また、テントの事務局伊佐さんは「ここ」の闘いをみなさん生活の場でも広げてください」と言われました。「標的の村」上映の話を伝えると「普天間基地を完全に封鎖した事実を取材した日は知事選真っ最中でしたが、沖縄県民(琉球朝日放送局)がつぶされる危機に陥るかもしれない、しかし社長が『腹は決めている』と。その覚悟が社員たちの励ましとなり作られた。そして高江住民の生活を守る闘いが世に知れ渡った」と話しました。

高江でシスターが座り込み

11月8日(土)現地取材

ときのことば

自分が行動したことすべては取るに足らないことかもしれない。しかし、行動したというそのことが重要なのである。

マハトマ・ガンジー

援助修道会

修道院より

12月11日:イチイチ祈りの会

場所は黒崎教会小聖堂、午後7時。
どなたでもお出でください。(通夜、その他の支障で出来ない場合は次の日曜日のミサ後)

12月のお知らせ

- ◆11月30日(日)内部被曝を許さない集会(福岡市 5p詳細)
下関労働教育センター文化祭(映画・各種展示)10時~
- ◆12月6日(土)下関アムネスティ(下関市民活動センター)…14時
“助けを求めている人びとのために手紙を書こう”
- ◆12月9日(火)社会福音部会(アドラック)…13時30分
- ◆12月10日(日)水曜デモ(日本軍「慰安婦」問題解決のために行動する会・北九州) 小倉駅前にて …17時~
- ◆12月11日(木)原発ゼロをめざす署名行動(JR黒崎駅前)…17時
- ◆12月14日(日)衆議院議員総選挙
- ◆12月19日(金)ドキュメント映画「A2-B-C」 ウエル戸畠 18時30分~(12月20日は14時、市立商工貿易会館)



長崎教会管区セミナー開かれる

— 信仰と癒し —
(FAITH AND HEALING)

11月9日(日)13時～ 大名町教会



大分、熊本、長崎、福岡から総勢300人近くの日本人信者、外国籍信者が一同に。北九州地区からは、フィリピン、タンザニア、エクアドル、メキシコそして日本人の33名が参加しました。

前半のプレゼンテーションでは、2人の佐世保の移住信者の方のスピーチと各地区からの歌や踊りが披露されました。北九州地区はテーマに沿って、参加者皆でテゼ「わが心たえよ主を」を英語と日本語で歌いました。浄水通教会のベトナムグループによるダンスや、福岡地区の子供たちの歌では客席の皆さんも手拍子で参加し聖堂内が一体となって楽しいひと時を過ごしました。また、スピーチでは、色々の方の日本での信仰体験を分かち合ってくれました。日本人のために、日本語訳のプリントが用意されました。ブレンダゴメスさんは、「人生の中で度々の苦難を通して、神は希望を持つことを気づかせてください。神は決して、私たちを見捨てない。」シシリアスミスさんは、「ガンを患うことにより、夫だけでなく、周りの多くの方々に支えられ、助けられて、神の愛を感じた。今でもガンと闘っているが、それは、神の恵みでもあります。」と力強く語ってくれました。

当朝から降り続いている雨も上がり、後半は、十字架とマリア像を掲げて聖堂から駐車場を一周するマリア行列。参加者全員の聖歌と祈りで進められました。その後、聖堂で日本語、英語、タガログ語、スペイン語、ベトナム語を織り交ぜての宮原司教司式のミサが行われました。

閉会の時、参加者にスカピュラー(Scapular=フィリピンのお守りの一種)が記念品として配されました。北九州地区からの参加者からは、「国籍を越えてのこのような豊かな集まりに参加できてとても良かった。」「初めて参加しましたが、とても楽しかった。来年も参加したいです。」と感想を話してくれました。北九州地区から参加した中の8名は子供達でした。そのほとんどが初めてセミナーに参加したのですが、口々に「楽しかった。」と感想を言ってくれました。喜びのうちに終わることが出来たセミナーでした。今回、マイクロバスの運転を引き受けくださった天神町教会の下田さんを始め、援助修道会シスターの方や多くの方々の支援のおかげで、北九州から大勢セミナーに参加することが出来ましたことを心から感謝します。(報告／有吉)



日本軍「慰安婦問題」とは何か

山下明子さんがその問題点を語る(13)

前号のポイント

京都市議会では維新系のひとりを除く全会一致で、橋下市長発言の撤回と謝罪を求める決議をしました。自民党も賛成。それは自分たちまで(橋下氏と)同じだ思われたら困るので。

(橋下氏の言う)「誰でも必要なことはわかる」そんなこと自民党は思っていないと。30の市議会が発言撤回を求める決議をして大阪市に送りました。ところが大阪市長は謝罪もしていないし撤回もせず、市長辞任もしていません。維新の共同代表も辞めていません。その後、麻生副総理が“ナチス発言”をしましたが、世界中から抗議がきて、彼はすぐに撤回しましたね。謝りました。大事なことは、「しまった！」と思ったら必ず謝らないといけないということです。いつまでも“あーでもない。こーでもない。自分は間違っていない”と言ってそのうちに右翼系の女性団体などが橋下氏を支持する声明を出したりするんで

2013年11月9日 下関講演

※編集の都合上、講演内容
の要点を掲載しています。
文責／編集部

す。吹田市の市長が「橋下氏は正しい」と言ったりし、そのうちに今の産経新聞と「慰安婦の真実国民運動」みたいなものに転回してきています。

ところが片方では、さすがに橋下市長の発言以降、今まであまり触れなかった岩波ブックレット本がものすごく売れてます。慰安婦問題というのを自分たちが知らないだけあって、実はこれだけ国際的にも批判が来るというのはすごいことなのではないかと。ですから少し良識のある方たちがこの慰安婦問題に対する関心が変わってきてているのです。国際社会でこれだけ言われてきることへの意識が出て来て、その意味で橋下市長発言は転機となっています。但しいわゆる右側からのリアクションも非常に大きいのです。

次に「人権皆無の社会からの自立」について。実は私、インドの一番下の階層カースト女性たちの調査研究を20年以上しています。彼女たちの運動にずっと関わって調査をし、グループを作り1年おき位に研修ツアーを行う活動をしています。そこでみてきたことは…(次号へ)



「この素晴らしい天気のように、私達はみんなニコニコして仲良く笑顔で暮らせる社会にしていきたいと思います。今日のパレードは大変意義があります。差別をなくしましょう」と話すニッコリ会代表の鍼野保雄さん。



日本とコリアにルーツを持つ「元ネット右翼で今は回心した方」と紹介されたご婦人の挨拶より

在特会とか（差別発言をする人たちも）いますが、その人たちだけではないと思います。

私は娘の公立小学校卒業式にチマチョゴリ（치마 저고리、chima jeogori朝鮮の民族衣装）を着て行ったのですが、ある人たちの中から「普通の服着てこいや、こいつ」と言ってくる人もいました。私は堂々と着て卒業式を行ったのに、そんな心ないことを言う人もいます。…（涙ぐむ）だけどそんなのに負けてしまうよりも、堂々と楽しく…（泣きながら）今日はよろしくお願ひします。

ニッコリしようパレードin 下関

11月23日(日)開かれる

日本とコリア（韓国・朝鮮）は古くよりきわめて深いつながりがあり、とりわけ下関はコリアとは歴史的地理的に縁が深く、在日コリアン発祥の地ともいえる所です。

この日、初めての「ニッコリしようパレード」が開かれおよそ100人以上が集いました。集会では韓国の民族衣装を着た在日グループの人たちが、手に持った楽器でにぎやかな音を奏でながら踊りをみせてくださいました。集会宣言の後、下関市内2kmをニッコリパレードです。

（予定では「安倍首相の事務所前」を通ることになっていましたが、いろんな理由でコース変更となりました。）牧師やシスター、県会議員も一緒にみんなで「仲良くしよう」と手を振りながら歩く私達に、道行く人や車の中からも手を振って応える市民の姿がありました。



パレード前に踊りを披露してくれました。
(下関駅そばの竹崎公園にて)

分かち合のひととき

虹の会

11月23日 23名参加

次回2015年1月25日ミサ後。
どなたでもご参加ください。

— 一人ひとりが自分自身の中に、神が望む秩序を植え付けなければ、人々の間に平和は成立しません。 —

教皇ヨハネ23世回勅「パーチェム・イン・テリス」（地上の平和）より

平和についての考え方と教会の役割を紹介する
社会司教委員会作成DVD「現代世界憲章への道」
を観て分かち合いました。

DVDの中で「教皇ヨハネ23世の平和への考え
が『現代世界憲章』に生かされ、現教皇フランシ
スコの使徒的勧告『福音の喜び』にも共通するも

のがある。」と紹介されていました。

「50年前の世界情勢に心配されたことが、現代
社会の不安にも重なる。」「『平和は人の心の
中で生まれる』というヨハネ23世のメッセージ
にとても共感しました。」などの平和への思い
が分かち合われました。

麻薬をめぐる国際戦争

秋吉久紀夫

(5)

五、日本のアヘン謀略作戦 その二

ところで、この日本アヘン謀略作戦で、おもてには姿をあらわさないが、陰の世界で実地に活躍していた二人の人物がいた。里見甫と藤田進である。里見はベンネームを中国人名の「李鳴」と名乗り、約二年間、天津の日本租界の芙蓉ホテル別館に住んでいたが、後に上海の共同租界紅口サイドの有恒路三七号の辰巳屋旅館に移動。辰巳屋は満鉄上海事務所の指定旅館であった。里見の故郷は福岡県小倉市（現北九州市）で、一九四六年二月一日、彼は戦犯容疑者として逮捕され、巣鴨拘置所に拘置された。彼は同年六月二八日、宣誓供述書に次のように述べている。

「私、すなわち李鳴こと里見甫は良心にかけて次の事が真実であることを誓う。一九三七年九月または一〇月、私は新聞記者として上海に参りました。私はそれ以前天津に居つたのです。一九三八年一月か二月に楠本実隆中佐が、私に特務のために多量のアヘンを売つてくれるかどうか

か尋ねました。特務部は支那派遣日本軍司令官の参謀部の一部でした。その職務は日本軍占領地域における政治的、経済的、文化的諸問題を取り扱うことでした。特務部の指令により、私は私の名義で貯めてある金から原価を二井物産会社に支払い、私自身の諸費用を差引いた残高を特務部に支払いました。……

一九四六年六月二八日 里見甫

里見の天津での熱河産アヘン密売の実績を高く評価したのが、関東軍参謀長東条英機中将、関東軍参謀副長の板垣征四郎少将、奉天特務機関長土肥原賢二少将、それに満州国政府内の岸信介、古海忠之などであつた。

また里見の活動によつて多額の謀略資金を獲得していた関東軍より、その一部が中国に駐在する武官、特務機関長、中央省部の中国関係幕僚に機密費として流れていた。一九三八年四月末より一〇月末までの期間だけで、特務が得た密売収入は、三〇〇箱で一箱当たりの収入が一万三

四四〇円であったから、合計約四〇〇万円余りの密売収入を特務部は得たことになる。

さらに中支派遣軍特務部、興亞院華中連絡部は一九三八年四月より一

九四二年夏までにイランアヘンを上海において、当初は里見甫個人、のちに里見甫が代表する華中宏濟善堂を通じて販売させた。その総販売量は四〇五〇箱、七七七万六〇〇〇両にのぼり、これによつて得た黒い収入は約八六〇〇万円余り、これに藤田勇よりの五五〇万円を加算すると、総額は約九一五〇万円という巨額なものであつた。さらに彼らは後にイランアヘンを三井物産をして上海に密輸入させ、里見甫に販売させて九〇〇〇万円以上の黒い資金を陸軍および興亞院華中連絡部は得たのである。しかも、この黒い非人道的ビジネスが聖戦を呼称した陸軍中央の承認のもとに、また歴代首相が総裁、外務、大蔵、陸軍、海軍の四大臣が副総裁であつた興亞院が行つた国家犯罪であつた。そしてこの犯罪の遂行に積極的に関わつていたのが、財閥商社三井物産など日本の商社であった。しかし戦争犯罪容疑者として巣鴨拘置所に拘置されていた里見甫は一九四六年一二月末どういう訳か不起

参考資料

・張勇安「中美禁毒：過程、限度及戰略選択」
・中国現代國際關係編集部発行「現代國際關係」二〇一三年第二二期

・于藍編著「美國初期侵華史話」一九五一年四月
・劉靜品「百年賣身的回憶－植民地時代華人血淚史」天地圖書有限公司刊

・「ウルグアイの大麻合法化」（岩田誠司記者）
・「朝日新聞」二〇一四年二月六日

・陳舜臣著「実録アヘン戦争」一九八五年中央公論社刊

・江口圭二編「証言日中アヘン戦争」一九九一年岩波書店刊

・高野秀行著「阿片の中国史」二〇〇五年九月新潮社刊

・藤瀬哉著「昭和陸軍阿片謀略の大罪」一九九二年山手書房新社刊

・石井曉「陸自『別班』危険な暴走」岩波書店発行「世界」二〇一四年三月号

・宇佐美誠次郎「滿州侵略」「日本歴史」現代三岩波書店刊一九六三年八月号

・中國社會の解体とアヘン戦争 田中正俊 岩波講座世界歴史 一九七一年八月刊



牛窓愛之進『阿片禍』(1933)年より

※当時、アヘンを吸う店(場所)があつたとのことです。(編集部)

少し早めの誕生会(中)



ようやく勤務先の育児休暇(1ヶ月)が取得できたので、早めに1歳の誕生会をしました。大好きな風船で家中をいっぱいにしました。子どもは楽しそうにはしゃいでいたのですが、これだけの風船を膨らませただんなさんは、頭がふらふらになりました☆▼◎★…。

記念の100号です。

ACO「働く人」

ルポライターの鎌田慧氏も寄稿。100号記念に全国103名の会員と仲間の一言も収録。ユニークなのは、30年前「働く人」に寄稿した山田恵さん(当時高校生)の文と、現在の文が掲載されていることです。1969年に創刊された「働く人」は、創立45周年を経てその重みを感じます。

日本漫画家協会
日本漫画家会議



にしやま すすむ
西山 遼さんの漫画



暴走を止めよう

働く人

「平和と福祉、労働者を大切にする社会を」



100号 カトリック労働者連絡(ACO)

ツイッター



闇の中にも笑いあり(R)

沖縄東村高江の第2座り込みテントで右の看板がありました。「防衛省よ」が「防衛雀よ」に変身。森にはたくさんの雀もいるでしょう。森を殺せば、雀も死ぬ。「防衛省の雀さんたち、森を殺すことなかれ!」とユニークな看板でした。

「やんばるの中の高江」

沖縄本島北部の豊かな森に囲まれた地域をやんばる(山原)といいます。やんばるの森には地球上でここだけにしかいないヤンバルクイナ、ノグチゲラなどの固有種や絶滅危惧種が数多く生息しています。日本全体の0.1%にも満たないやんばるに1000種以上の高等植物や5000種以上の動物が暮らしています。国際自然保護連合が保護を求めるほど、世界的に貴重な生物多様性の宝庫です。その価値を多くの人が認め、世界自然遺産、そして国立公園の候補に挙がっています。やんばるの中に東村高江があります。(Voice of TAKAE)

《アムネスティ》下関通信(8)



はがきを書くだけで人を救えるの?。私も初めはそう思っていました。

人間は未だに戦争を止めることができず、二つの世界大戦を経てやっと樹立した「世界人権宣言」の全き実現を目的に誕生したのが「国際人権NGOアムネスティ」です。その中心的活動は危機にある人権被害者救出用のはがきを全世界から膨大数集め、その政府へ届ける運動なのです。特に世界人権デーがある12月は、世界最大の人権イベントといわれる「ライティングマラソン」[国際アムネ(本部)選定の人権被害者の内容と救済責任がある政府の住所が各国アムネ(支部)に届けられ、各支部は国内グループ

(日本は約70)においてその説明用紙を切り貼りし、個人用救済はがきを作成、署名、投函します。昨年は全世界230万人参加]が世界一斉に行われます。一人につき数十万通の救済要請を受ける政府は状況改善を迫られ、約4割に効果があったとの詳しい報告が毎年なされています。

下関グループは2012年に初参加。長年獄中にある台湾の「良心の囚人」から礼状が届き驚きました。

今年は12月6日(土) PM2:00~4:00、「しみのせき市民活動センター」(下関駅人工地盤より入る)で行います。市民のどなたでも、1枚でもご参加下さると大変嬉しいです。切手代(海外はがき1枚70円)のご協力をお願いします(無論インターネットからの参加もできます)。

(2014.11.25 アムネ下関、山県)



東アジアの平和と福音的展望

韓国国民1%の済州島民と東アジアの平和実現を夢見ながら



カトリック韓国済州教区長

カン・ウイル司教

※文責／編集部

(2)

セウォル号事故の後、官僚と業者の癒着問題が各分野にあり、社会全般の構造的不条理や不正に直結していることが明らかになつてきました。事故後、大統領も「これは本当に國を改造しなければならない」という言葉を用いながら徹底的に解明しようとしていますが、そう簡単にぬぐいさられるわけではないと思ひます。事故後、4ヶ月の間、犠牲者遺族と野党側は、事故の真相究明と責任所在解明のため、徹底的な捜査権と既得権を含んだセウォル号特別法の制定を要求しています。そしてセウォル号の家族たちは、特別法を要求しフランシスコ教皇訪韓前から、ハンストに入りました。

「フランシスコ教皇訪韓」

わたしたちは教皇訪韓のため、いろいろ準備をやつしていましたが、教皇の到着がまもない時まで問題が解決されませんでした。そして教皇が訪韓される数日前に準備委員会として記者会見を行いました。百何十人か記者がいましたが、その中から「今、広場でセウォル号の家族たちがハンストをやっていますが、どうされますか?」と質問がありました。17万人以上の人々が、列福式のこの場に入るのです。既に各教会からも名簿も提出して身元調査も終わっている段階で、教会組織を通さないこのセウォル号の遺族たちをどうしますかという質問なのです。これは私たち教会にとっても大きな課題でした。何とかして政府与党と野党側、遺家

「**国民という言葉**

セウォル号事故が起きてから遺家族たちの中から「国民の命が守れない国家は国家ではない。そんな国に住みたくない。問題が片づいたら海外へ移住します。」その言葉を聞いた時、私は「國家とは一体何であろうか」という問題をあらためて考えさせられました。

族の人たちが合意に達すること、そして特別法がまとまるることを節とを質問したわけです。その時、私はこう答えました。「涙を流している人を追い出して、そこで愛の秘跡を私たちが行うことはできません」。そういう状況の中でフランシスコ教皇が訪韓されました。教皇はセウォル号の問題について直接何も言わなかつたのですが、列福式のミサの前に、長い広場をオープencarに乗つてぐるぐる回りながら祭壇のある方へ接近してきました。(ハンストの)現場に近づき、教皇はその家族がいるところで車から降りて彼らに近づき、言葉では何も言われなかつたのですが、3週間以上ハンストを続けている彼ら、犠牲者のおとうさん一人に両手で彼の肩を抱きながら慰めていました。そのおとうさんは教皇の手に自分の顔をうずめしばらく泣いていました。その場面をテレビで視聴していた韓国国民はみな深く感動し、大きな慰めを受けました。いろいろな新聞や放送が「フランチエスコ教皇こそ本当の指導者の姿を見せてくれた。私たちは、本当に韓国で今まで見たことのない本当のリーダーの姿を今日、私たちは見た。」と真心から出る賞賛の言葉を発しました。

編 集 後 記

沖縄知事選で翁長雄志さんが当選。変化を感じます。沖縄では“基地がなくては生きていけない”と言われるくらいそれが常識化されていました。基地とお金が表裏一体と思わされていたのです。ところが「基地がないほうが沖縄の振興になる」と県民自身が体験としてわかつてきました。実際、那覇市内はひんぱんに大渋滞が起こりますが、それを嘲笑うかのようにゆつたりした土地=米軍基地が島全体にあります。あるホテル会長が、基地のないほうが観光収入でもっと伸びると語ったそうです。「国からお金を惠んでもらう」ようなどまじと脅しは沖縄県民の誇りの前に通用できなくなつたようです。(瀬下)